

2019 年度 推薦入学試験（体育推薦） 法学部 法律学科「出題の意図」

1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
7	7

※志願者数・合格者数は、指定競技推薦を含む

2. 法律学科 アドミッション・ポリシー

法律学科は、現実の社会において発生する様々な問題について論理的かつ合理的に考えることができる法的思考能力（リーガル・マインド）を持ち、さらにその能力をもちいて、これらの問題に対して柔軟かつ適切な解決策を導き出すことができる人材の育成を目指しています。

そのため、特に以下の点について、十分な適性と意欲を持った志願者を求めます。

1. 社会の動きに広く関心を持っている人物。
2. 物事を柔軟かつ論理的に考え、それを的確に表現できる人物。
3. 高い志と正義感、忍耐力を有する人物。

A O型入学試験では、志願者の自己推薦ポイント（人間性、活動実績、将来への夢・希望など）が、これから法律学科で学んでいく上でどのような意義をもつかを、みなさん自身の言葉で明確に表現できることが望まれます。

3. 出題の意図

法律学科は、上記の通り、現実の社会の動きに広く関心を持ち、様々な社会問題に対する自己の意見を論理的な思考に基づいて的確に表現できる人物を求めています。

小論文では、論理的な思考力・表現力（文章力）が問われるのはもちろんですが、「パラリンピック」という題材への解答からは、社会における多様性や協働性への関心および知識の程度が読み取れると考えます。また、取捨選択できるキーワードを提示したことで、柔軟かつ的確な判断力や思考力があれば、それらの能力を駆使して解答することができる出題となっています。

以上のような出題をすることは、法律学科のアドミッション・ポリシーに適合する人物を見出すことに資すると考えます。

4. その他特記事項（評価のポイント・アドバイスなど）

特にありません。

2019 年度 推薦入学試験（体育推薦） 法学部 地域行政学科「出題の意図」

1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
7	7

※志願者数・合格者数は、指定競技推薦を含む

2. 地域行政学科 アドミッション・ポリシー

本学科では、入学者に対して、高校卒業程度の基礎学力を身につけていることに加えて、特に以下の点について適性と意欲を持っていることを望みます。

1. 地域社会の出来事から、広く世界の情勢にまで関心を持ち、常に問題の本質を見極めようと努力する人物。
2. 何事に関しても、しっかりとした自分自身の考え方を育てるように学習し、同時に、他者との意見交換を通して、議論を建設的に発展させ、異なる考え方からも学ぼうと努力する人物。
3. 将来、自ら選んだ職業を通して地域に貢献することを希望し、それへ向けての努力を厭わない人物。

地域行政学科は、行政・民間部門において政策を企画・立案し、実務に対応できる人材、より深い見識と広い視野を身につけ、地域社会の発展に貢献できるような人材の育成を目指します。

特に A O 型入学試験において、私たちは高い志を有し、地域や社会の動きに目を向け、行動力を有する情熱ある志願者を求めます。

これまでの勉強や部活動で得たもの、あるいはこれからの夢を、自分の言葉で表現できる能力を高く評価します。

3. 出題の意図

出題の意図はスポーツ推薦で地域行政学科を志願する受験生として沖縄県における行政課題について日頃から新聞などを通してどの程度、関心を持っているかをみるものであり、小論のテーマを通して行政の視点、県民の視点そしてスポーツをやってきた高校生の視点から論ずることができるか問うものである。さらに、与えられた「表」をどこまでうまく使い、読みこなしながら論ずる力があるかを問うものである。単なる知識を問うものではなく、与えられた課題に対してどのような論理展開で説得力ある論述ができるかをみたい。

新聞の記事を基に出題したのは、新聞記事には毎日のように、わが国の行政は勿論のこと、沖縄県の行政について大きく取り上げられている。地域行政学科で学びたい受験生であれば、行政関連の記事は読んでほしいという願望も込めての出題である。

4. その他特記事項（評価のポイント・アドバイスなど）

小論の場合、字数が 600～800 字の場合、750 字ぐらいは書くのが望ましい。小論の場合は、単なる知識があるどうかを問うのではないので、いろいろな視点から与えられたテーマを論ずることを日ごろから、練習する必要がある。採点者を納得させる小論を書くには文章表現力が必要であることは言うまでもない。そのためには、日ごろから新聞などを読む習慣をつけることも大切である。新聞を読むことで語い力に豊富になり、小論の基礎力にもなる。

2019 年度 推薦入学試験（体育推薦） 経済学部 経済学科「出題の意図」

1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
10	6

※志願者数・合格者数は、指定競技推薦を含む

2. 経済学科 アドミッション・ポリシー

経済学科は、社会経済における諸問題に、目的意識を持ち意欲的に取り組む人材の育成に努めています。そのために、以下のような志願者を求めます。

1. 高等学校卒業程度の基礎学力を有する人物。
2. 経済・社会を含めた諸問題に関心がある人物。

A O型入学試験では上記に加えて、

経済・社会を含めた諸問題に強い関心を持ち、何らかの解決策を導き出すための「想像力・創造力・表現力」を有する人物を求めます。

3. 出題の意図

本小論文出題の意図は、受験生が経済学科を専攻する上で必要な能力をどれほど持っているのを見るものである。問題文において新聞やニュースの出来事を紹介し、社会への関心がどの程度あるかを見る。回答は箇条書きで要約させることで、1 つは高等学校卒業程度の基礎学力、2 つには経済・社会を含めた関心の度合い、更に 3 つには想像力・創造力・表現力を判断するものである。

4. その他特記事項（評価のポイント・アドバイスなど）

評価としては、問題の趣旨を踏まえ社会への関心がどの程度か、表現内容及び制限字数以内にまとめる能力を見る。

2019 年度 推薦入学試験（体育推薦） 経済学部 地域環境政策学科「出題の意図」

1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
7	7

※志願者数・合格者数は、指定競技推薦を含む

2. 地域環境政策学科 アドミッション・ポリシー

地域環境政策学科では、経済の視点から地域と環境を考えることを通して、環境に配慮しながら地域経済の発展に貢献し、持続可能な社会を創造できる人材の育成を目指しています。そこで、本学科では、次の①～⑤について自らの言葉で説明できる志願者を求めています。

- ①沖縄及び世界の経済や環境に広く関心がある人
- ②沖縄地域の経済や環境を含めた、沖縄の過去・現在・未来に関心がある人
- ③様々なフィールド（現場）に出て、積極的に活動することが好きな人
- ④社会で起きている様々な事柄に関心を持ち、地域社会及び世界へ貢献したいという熱意のある人
- ⑤大学の授業に耐えうる基礎学力を有し、勉学に対する意欲がある人

特にA O型入学試験では、一般試験だけでは測ることが難しい多様な資質を有する学生を受け入れるため、コミュニケーション能力が高く、上記の①～⑤について自らの言葉で表現でき、学内外の活動に積極的に取り組んだ実績があり、それらの活動が、本学科で学ぶ上でどのような意味を持つのかを説明できる志願者を求めます。

3. 出題の意図

出題の意図は、地域経済や環境問題に関する知識を有しているか、関連する時事問題に関して思考し、自らの考えで判断し、またそれを適切に表現できるか、さらに、主体性を持ってこれらを学んでいるかを評価することです。

4. その他特記事項（評価のポイント・アドバイスなど）

評価のポイントは、問われている内容を適切に理解し、与えられた条件をクリアしているか、導き出された結論と論理展開に矛盾がないか、語句の用法に誤りがないか等です。アドバイスとして、普段から論理的な文章に触れ、書く練習をすることをお勧めします。

2019 年度 推薦入学試験（体育推薦） 産業情報学部 企業システム学科「出題の意図」

1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
7	2

※志願者数・合格者数は、指定競技推薦を含む

2. 企業システム学科 アドミッション・ポリシー

企業システム学科では、情報化、国際化の進展の中、多様なビジネス活動に対応できる人材の育成を目指し、「マーケティング」「経営」「会計」の3分野を柱に専門的、体系的に学んでいきます。よって、本学科では以下のような志願者を求めます。

1. 基礎的な教養を身につけ、自分自身のスキルや能力を鍛える意志を持っている人物。
2. 企業システム学科で学びたい事を自覚し、表現できる人物。
3. 大学卒業後のビジョンを抱き、地域・国際社会に貢献する意欲を有する人物。

さらに、学力だけでは計れない多様な資質を有する学生をA O型入学試験によって受け入れ、その資質を開花させるために必要な教育を通して将来のビジネス社会で活躍できる人材育成を行います。

A O型入学試験では、特に、次のような志願者を求めます。

- ①他者に誇れる活動や実績等を有している人物。
- ②企業システム学科で学びたい事を明確にアピールできる人物。
- ③大学卒業後のビジョンを抱き、自己研鑽ができる人物。

3. 出題の意図

この小論文の出題の意図は、受験生がビジネス分野を専門とする上で、必要な能力をどの程度有しているのかを確認することにある。企業システム学科では、情報化、国際化が進展する中で、多様なビジネス活動に対応できる人材の育成を目指しており、日本国内ビジネスおよび国際ビジネス環境で起こっている出来事に対し、自分なりの情報収集、整理、分析ができるか、また、提示された課題を議論する理解力、表現力を有しているかどうかを見ようとするものである。

4. その他特記事項（評価のポイント・アドバイスなど）

特になし。

2019 年度 推薦入学試験（体育推薦） 産業情報学部 産業情報学科「出題の意図」

1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
2	2

※志願者数・合格者数は、指定競技推薦を含む

2. 産業情報学科 アドミッション・ポリシー

1. 将来の具体的なビジョンを描き、自己研鑽できる人物。
2. 情報科学や産業・経済に興味があり、産業情報学科で学びたいことを明確に持ち、意欲的・主体的に勉学に励むことのできる人物。

A O 型入学試験のアドミッション・ポリシー

産業情報学科では産業社会(経済・金融・企業経営など)の基本的なしくみと情報技術について学び、経済活動や日常生活と情報技術の深い結びつきを理解することで、個人が地域社会において果たすべき役割について認識を深めます。

理論と実践が融合したカリキュラムにより、あらゆる産業分野において情報化を推進する「産業の情報化」、情報技術を基に企業や産業の創出・発展を企画し実行する「情報の産業化」が担える人材の輩出を目標としています。

また、学力だけでは計れない多様な資質を有する学生を A O 型入学試験によって受け入れ、個性に柔軟に対応した教育を行い、多元的な社会で活躍できる人材を育成します。A O 型入学試験では、特に、次のような志願者を求めます。

- ①他者に誇れる活動を行った、あるいは行っている人
- ②産業情報学科で学びたい事を明確にアピールできる人
- ③大学卒業後の具体的なビジョンを描き、自己研鑽できる人

3. 出題の意図

2019 年度の産業情報学科、体育推薦入試小論文試験では、以下の出題の意図に基づいている。

- ①体育推薦入試を志望する志願者が、社会の情報化や ICT 技術の活用に関心を持ち、基本的な知識を学習しているかどうかをみる。
- ②出題された問題に対して、論理を組み立てる思考力、自分の意見の論拠を示して明瞭に表現できる能力をみる。
- ③主体的に学んだ知識を、自らのスポーツ活動や学業に活かそうという視点、判断力があるかどうかをみる。

4. その他特記事項（評価のポイント・アドバイスなど）

特になし。

2019 年度 推薦入学試験（体育推薦） 総合文化学部 日本文化学科「出題の意図」

1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
2	2

※志願者数・合格者数は、指定競技推薦を含む

2. 日本文化学科 アドミッション・ポリシー

日本文化学科は、日本文化及び琉球文化への造詣を深めることを教育上の目的としています。具体的には、言語学・文学を中心とする理論的、かつ実践的な教育を通して、国際社会、情報社会、地域社会の中で自己の役割を深く認識し、生き生きと実践できる人材、そして、豊かな知性、分析力、情報処理能力、表現力、コミュニケーション能力、共生能力を備えた人材を育てていきます。

日本文化学科では、各種入学試験を通して、以下の各専門領域に強い関心を持つ志願者を求めています。

1. 日本語学、日本文学、日本の芸術・芸能
2. 琉球語学、琉球文学、琉球芸能
3. グローバル時代に求められる文化情報の発信技能・多様なコミュニケーションのあり方

特に、AO型入学試験では、以下のような能力、意欲をもった志願者を求めます。

- ①批評・創作(小説、詩、書、絵画、演劇など)を含む広い意味での表現活動、琉球文化の継承発展に関する活動などの領域で優れた実績を上げ、大学生活の中で、さらに深めようとする人。
- ②国語科教員、日本語教員、図書館司書(学校司書を含む)、司書教諭といった当学科の専門領域に関わる職業に深い関心を持ち、それを通じて社会貢献を目指す人。
- ③国際交流活動、ボランティア活動、課外活動(スポーツ、文化活動) などを通して広い視野を備え、日本文化、琉球文化、多文化間交流などの専門領域を深く学びたいという意欲を持つ人。

3. 出題の意図

問題 1 は、スポーツ経験を通じた他者とのコミュニケーション能力の修得状況を、日本文化学科のアドミッション・ポリシーにある「言語」への関心の深さとともに評価するための小論文問題となっています。

問題 2 は、日本文化学科での学びについてどのような意欲・関心をもっているか、また、日本文化学科のアドミッション・ポリシーとの適合性を評価するための小論文問題となっています。

問 1、問 2 とも、大学に入学する上で必要となる基礎的な知識技能である言語運用能力もあわせて問うています。

4. その他特記事項（評価のポイント・アドバイスなど）

問 1 については、高校時代にスポーツに力を注いだ人だからこそ発見できる、言語という面に注目したコミュニケーション能力の重要性についての説明が十分なされている作文を高く評価しました。

問 2 については、問題文にある条件をふまえて自身の志望動機を説明できているか、またその説明は本学科のカリキュラムにマッチしているか、を評価の基準としました。

2019 年度 推薦入学試験（体育推薦） 総合文化学部 英米言語文化学科「出題の意図」

1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
2	2

※志願者数・合格者数は、指定競技推薦を含む

2. 英米言語文化学科 アドミッション・ポリシー

英米言語文化学科は、沖縄国際大学のアドミッション・ポリシーおよび学科の教育目標に照らし、以下のような志願者を求めます。

1. チャレンジ精神と意欲に満ちた人物。
2. 英語力の向上に積極的に努力する人物。
3. 英語圏の言語や文化に強い関心を抱く人物。
4. 他者とのコミュニケーションを大切に、理想的な人間関係の構築に努力する人物。

英米言語文化学科は、言葉と人間との深いかかわりについて学び、言語や文化の多様性を理解することをモットーにして、世界の人々と対話・交流するために必要な「真に国際的に通用する実践的な英語力」と、益々グローバル化する社会に対応できる「情報処理技術」を身につけた人材の育成を目指しています。

特に、A O型入学試験では、次のような学生を求めます。

- ①チャレンジ精神と意欲に満ちた人
- ②地域や社会活動に関心のある人
- ③語学と異文化理解能力を身につけ、国内外で活躍したいという志を持った人
- ④英検 2 級程度の英語力のある人が望ましい

* 二次審査では、日本語による面談のほかに、英語による 5 分程度の面談も行います。

3. 出題の意図

英米言語文化学科は、世界の人々と対話・交流するために必要な「真に国際的に通用する実践的な英語力」と、益々グローバル化する社会に対応できる「情報処理技術」を身につけた人材の育成を目指している。したがって、この学科の入学希望者には他者とのコミュニケーションを大切に、理想的な人間関係の構築と英語力の向上に積極的に努力する人物を求めている。

次の英文は、古典時代のギリシャ・ローマ文化について述べたものである。解答者には、英語の語彙力だけでなく、文章全体の構成や段落のつながりを理解し、それぞれの段落の要点を整理し、日本語で簡潔にまとめる力が求められる。

4. その他特記事項（評価のポイント・アドバイスなど）

特になし。

1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
4	4

※志願者数・合格者数は、指定競技推薦を含む

2. 社会文化学科 アドミッション・ポリシー

社会文化学科は、沖縄国際大学の「アドミッション・ポリシー」を以下の通りに具体化し、「沖縄」と「人間」について学ぶ意欲と関心を持ち、自らの個性と人間力の向上に努める人材を求めます。

1. 沖縄を理解するための知的好奇心と知的探求心をもつ人物。
2. 沖縄をとりまく世界の社会や文化の動きに深い興味と関心をもつ人物。
3. 沖縄をとりまく世界の問題と向き合うための基礎学力を有する人物。
4. 自らの問題意識のもと、フィールド（現場）に出て積極的に情報を集め考え判断し、主体的に行動することができる人物。
5. 国際交流・地域・ボランティア・文化・スポーツなど学内外の活動に主体性と協調性をもって取り組める人物。

A O型入学試験では、上記の5項目のうち、特に1、4、5の各項目を重視します。

具体的には、

○項目1については、「知的好奇心」や「知的探求心」を、大学生活の中でどのように発揮しようと考えているのかを説明できることを求めます。

○項目4、5については、これまでの実績を具体的に説明できることを求めます。

3. 出題の意図

社会文化学科では、アドミッション・ポリシーに掲げる通り、「社会や文化の動き」に対して興味・関心をもち、「問題と向き合うための基礎学力」を有する人材を求めている。そのため今回の課題は、体育推薦入試であることも考慮して、スポーツの観点から社会に対する関心を問う内容とした。本課題は、スポーツと社会との関係について、互いが影響を与え合うものであるという前提に立って、その関係の具体的なあり方を説明するよう求めている。入学希望者がそれに応えるためには、自分自身の経験や最近の社会の動きをふまえて、互いに影響し合う関係を十分に意識して整理しながら解答することが求められる。さらに、その説明をふまえて重視すべきポイントを説明するためには、主体的に論点を見出すための思考力・判断力が必要とされる。それを小論文として課すことによって、入学希望者の思考力・表現力をはかり、本学科のアドミッション・ポリシーに対する合致度を確認することが、出題の意図である。

4. その他特記事項（評価のポイント・アドバイスなど）

評価のポイントは、以下の3点である。第一は、出題の意図を正確に理解できているかどうかである。本課題が問うている双方向の影響を明確に区別しながら説明し、それとの関連で自分が重視するポイントを提示することが必要である。第二に、近年の社会的な動きに対して関心をもち、それを具体的な説明につなげることが必要である。第三に、全体の説明に整合性をもたせながら、自分の考えを論理的に表現することが必要である。思いついた事例を無秩序に並べるのではなく、論理的な展開を強く意識しながら自分の考えを述べることが重要である。

2019 年度 推薦入学試験（体育推薦） 総合文化学部 人間福祉学科 「出題の意図」

1. 実施状況

①社会福祉専攻

志願者数	合格者数
6	6

②心理カウンセリング専攻

志願者数	合格者数
3	3

※志願者数・合格者数は、指定競技推薦を含む

2-1. 人間福祉学科 社会福祉専攻 アドミッション・ポリシー

社会福祉専攻では、以下のような志願者を求めています。

1. 将来、社会の各分野で社会福祉の専門家として働くことを強く希望し、その素質が十分であると認められる人物。
2. 社会福祉の分野に活かせる具体的な能力や技能を有し、大学での勉学や将来において活用が期待できる人物。
3. 将来、アジアや太平洋地域をはじめとする国際的な場における支援活動に参加することを熱望する人物。

上記に加えて、A O 型入学試験では、以下のいずれかに該当する学生を歓迎します。

- ・社会的マイノリティーの問題を自分の問題として考えられる人
- ・グローバルな視点をもつ人
- ・知的探求心と批判的な思考力を培い、積極的に社会に参画したい人
- ・他者の個性、多様性に寄り添い、他者と一緒に社会の状況を正しく認識し、問題解決のためのスキルを身につけたい人
- ・リーダーシップを発揮できる人。また、自分や他者を肯定的に捉えることができる人
- ・他者と協調、共創するコミュニケーション能力を持つ人

2-2. 人間福祉学科 心理カウンセリング専攻 アドミッション・ポリシー

人間福祉学科心理カウンセリング専攻は、沖縄国際大学の「アドミッション・ポリシー」を以下の通り具現化し、人間のこころに関心を持ち、自らの個性と人間力の向上に努める人物を求めます。

1. 人間の「こころと行動」と「人と人とのつながり」について学ぶ意欲と関心を持つ人物。
2. 大学で学ぶことに強い意欲と関心を持ち、自ら学び、常に自己研鑽、自己成長に努める人物。（自分を成長させようという意欲と態度を持つ人）
3. 人間のこころや行動の成り立ち、働きについて、心理学的な立場からの確に理解し、日常生活に実践的に応用したいという真摯な態度を持つ人物。

A O 型入学試験では上記に加えて、

- ①人間のこころについて科学的な視点（実験・調査・観察・統計など）から学ぶ意欲のある人
- ②これまでに意欲的に取り組んできた活動や得意分野が、大学で学びたいことに結びついている人を求めます。

3. 出題の意図

人間福祉学科は、福祉や心理の専門家を目指す学生を求めています。このことは、社会福祉専攻の「将来、社会の各分野で社会福祉の専門家として働くことを強く希望し、その素質が十分あると認められる人物」、心理カウンセリング専攻の「人間のこころや行動の成り立ち、働きについて、心理学的な立場からの的確に理解し、日常生活に実践的に応用したいという真摯な態度を持つ人物」を求めるアドミッション・ポリシーからも確認することができます。

このことを踏まえ、本問を作成しています。本問の出題意図は、専門家の学校への多様な関り方に対する、受験生の基礎的な知識・理解、論理的思考力・表現力を確認することにあります。福祉専攻や心理専攻の入試という観点から、スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーなどの専門家も出題テーマとなりえますが、体育推薦ということに鑑み、受験生がよりイメージしやすい「部活動指導員」をテーマとしています。

問題は、「導入による利点と克服すべき課題」を論じる形式にしています。この形式により、マスメディアや実体験から得られる「部活動指導員」をめぐる基礎的な知識、「部活動指導員」に関する自身の経験等に基づく理解、あるいはメリットとデメリットの両方に配慮する思考力・判断力等を確認できるようにしています。さらに、利点・課題を論じる際に適切な根拠を挙げることができているかどうかを確認できるようにしています。

4. その他特記事項（評価のポイント・アドバイスなど）

将来、福祉や心理の専門家になるうえで、まずは身近な学校や社会にどのような専門家が存在し、どのように自分たちに関わっているかを知ったり、考えたりするようしてみてください。

また、特定のテーマについて賛成や反対などの意見を述べる際には、立場の異なる相手も納得できる理由を挙げるよう日頃から意識してみてください。